

## 第二学期終業式式辞

令和4年12月20日

### ※ 二学期を振り返って・・・繋がれ心、輝く絆、新たな歴史を創り出そう

「With コロナ」が生活に定着し、なおも制限された生活が続いています。夏に第7波の到来ということでしたが、また第8波の到来について注意喚起を行わなければなりません。今年度になって世界全体が社会活動を止めずに空白の日々を埋めようとしています。感染対策の徹底はもちろんですが、マスクについても相手が不快にならないようエチケットに心掛けてください。

さて、二学期は体育祭の準備からのスタートでした。入場者制限を設けたり、内容を精選したりと制約は設けました。「繋がれ心、輝く絆、新たな歴史を創り出そう」のテーマのもと体育祭、文化祭を実施し、観覧していただいた保護者等の皆様からも好評価で、気持ちよく実施することができました。修学旅行や遠足も実施することができ、ものづくりコンテスト木材加工部門で岩城迅さんが全国第3位となりました。高文祭には、吹奏楽部、声楽部、美術部が出場し、声楽部は特別賞を受賞しています。努力が成果となって出始めています。

### ※ スポーツ界での活躍から学ぶこと

サッカーワールドカップでの熱い戦いに、まだ気持ちが高ぶっている人もいるかもしれません。ほかにも大谷翔平選手はベーブ・ルース以来104年ぶり2人目となる「2桁勝利、2桁ホームラン」の偉業を達成しました。千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希望投手の28年ぶり完全試合や流行語大賞となった「村神様」の活躍、パラリンピックテニス競技で活躍した国枝慎吾選手も全豪オープン、ウィンブルドンで優勝しました。BMXと言われる自転車競技の世界選手権で男子パーク種目において東京五輪5位の中村輪夢選手が日本人初優勝を果たしました。先週は、ボクシング井上尚弥選手が4団体の統一王座となりました。もうずいぶん前のことに思えますが2月には北京冬季オリンピックもあり、今年はスポーツ選手の活躍で元気をもらうことが多かった年です。

森保監督が、帰国してすぐのインタビューの中で、若い世代へメッセージを伝えていました。代表26人中19人がワールドカップ初めての経験であり、若手の躍動について、経験がない選手でも日頃しっかりやっていたらできるんだ、日本の若い人たちもすばらしい可能性を持っていると言われました。伝えたかったことは、若い人たちには自分たちの可能性を信じて成長してほしいということでした。それは、スポーツのことだけではないと思います。他人の活躍から勇気をもらうことはどういうことなのか考えてみてください。定期考査で頑張っている姿、部活動で友達が頑張っている姿、各種コンテストで頑張っている姿、資格取得で頑張っている姿、先ほども表彰伝達をしました。自分にもできるという気持ちを持ち、様々な分野で努力してください。

### ※ 一年の計は元旦にあり

一年の計は元旦にありとよく言われます。由来として諸説ありますが、広島出身の戦国武将毛利元就はこう言っています。

一年の計は春にあり 一月の計は朔（ついたち）にあり 一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり  
朔とは、その月の初めの日。鶏鳴とは、その日の朝、一番鶏が鳴く早朝のことです。

元旦、月初めの日、その日の早朝など早め早めに計画を立てるとともに、計画を実行していきなさいという意味です。

気持ちが上向きになっている時こそ、計画を立て、目標に向かって始めることが大きな成功や幸せをつかむことにつながります。

冬休み、2023年の新たな計画を立てて実行を始めてください。三学期、元気で会いましょう。